

# 〈歴史〉選定の観点からみた内容の特色

## 観点 『**中学社会 歴史**』の特色と具体例

### 選択、程度、分量

- 社会科の目標**に照らして、適切な内容が取り上げられているか。
  - 新学習指導要領の「社会科の目標、各分野の目標、内容、内容の取扱い」をふまえ、歴史的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が的確に示されている。典型的な教材への焦点化と学習内容の重点化が的確に図られ、特に、社会の変化や今日の課題が反映された事象を積極的に取り上げることで、生徒の「未来社会を切り拓くための資質・能力」を育むように配慮されている。
    - 巻頭1～2「私たちにつながる歴史」、第7章3節p.276～283「冷戦の終結とこれからの日本」、p.284～285「平和と共生を願う人々」、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など
  - 生徒の日常生活や経験と関連の深い身近な話題・内容が多く取り上げられているほか、巻頭・巻末のグラフィックページなど、生徒の興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学ぶ楽しさや意欲が高まるように配慮されている。冒頭には、「歴史にアプローチ」が設けられ、歴史学習の進め方や「歴史的新見方・考え方」（視点や方法）について確認できる構成になっている。また、各章の扉ページや「学習を始めよう」には、図版を大きく掲載し、資料の読み取りを行いながら、章の学習内容を見通すことができるように工夫されている。
    - 巻頭1～2「私たちにつながる歴史」、p.7～9「歴史にアプローチ」、各章の扉、各章の「学習を始めよう」など
  - 生徒の学力向上に対して、どのように配慮されているか。
    - 全体のページ数や本文の記述量をさらに充実させ、学習内容を詳しく丁寧に扱うことにより、基礎的・基本的な事項の確かな習得が図られるように配慮されている。各章の学習を見通す「学習を始めよう」、本編のページに設けられた「確認／表現」・「読み解こう」のコーナーや、「歴史の技」・「歴史の窓」などのコラム、学習を広げたり深めたりする特設ページ、そして単元の最後に取り組む「学習のまとめと表現」のページというように、段階的な学習を通して学力の着実な向上が図られるように構成されている。また、本文中には、資料との関連がわかる資料番号や、前出・後出する関連箇所への参照ページも挿入され、学習項目が関連する教科書内にある他の箇所も示されるなど、学習を支援するさまざまな工夫がされている。
      - p.Ⅱ「教科書の使い方」、p.Ⅲ～Ⅳ「もくじ」、全般
    - 学校教育法施行規則が定める各分野の授業時数をふまえて編集されており、表現活動をはじめとするさまざまな活動のための時間も十分に確保しながら、充実した学習を進めることができるように、適切に配分されている。特に歴史的分野では、年間授業時数をふまえ、近現代に重点を置くなど各単元の扱いに軽重をつけることにより、生徒がじっくり追究しながら充実した学習を展開できるように配慮されている。本編については、授業の展開や学習の見通しがつきやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成されているほか、学習指導計画上でゆとりのある時数が配当され、学校や地域の事情に応じて、特設ページの扱いなどにより弾力的な時数の運用ができるように設定されている。
      - 本編時数のモデル（第1章：6、第2～4章：59、第5～7章：70 計135）
      - ※予備の時間を含めた時数。

### 組織・配列

- 単元が新学習指導要領に対応し、適切かつ系統的に構成されているか。
  - 単元構成は、学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、「章・節」の配列により、その対応がわかりやすく組織されている。また、節の区分とタイトルから内容のまとまりをとらえやすいように構成されている。「教科書の使い方」ページでは、本文ページの見方・使い方をコーナー、マークなどが紹介され、続く「もくじ」では単元構成と学習内容の全体が一覧でき、学習の位置や見通し、方法を生徒がつかみやすいように工夫されている。各章では、日本と世界の歴史がバランスよく配置され、時代背景を大局的に捉えながら学習できるように構成されている。
    - 社会の変化や今日の課題が反映された事象が積極的に教材化されているとともに、そうした変化や課題に自ら対応する資質・能力を育成するという視点から、問題解決的な学習が基調とされている。特に、歴史学習のまとめとしての「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」が設定され、より実施しやすく構成されている。
      - p.Ⅱ「教科書の使い方」、p.Ⅲ～Ⅳ「もくじ」、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など
  - 各分野の単元構成は、前期・後期の二学期にも配分しやすく配列されている。
    - 全般
  - 教育基本法第2条の第1～5号及び学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の第2に示された内容について、社会科の目標や学習内容と関わらせた指導を効果的に行うことができるように構成されている。歴史的分野では、「身近な地域の歴史」を調べる学習において、校外学習を行う際に留意すべきマナーにも言及しているほか、歴史の歩みのなかで人々が営んだ職業や、社会生活との関わりについて捉えることができるように配慮されている。
    - p.10～16「身近な地域の歴史を調べよう」、p.88～89「働く女性や子どもたち」など
  - 小・中の接続や生徒の発達段階との関連に関して、どのように配慮されているか。
    - 教育出版「小学社会 6」のキャラクターが中学生に成長した姿で紙面に登場し、共に学び合う意図が連続するように工夫されている。第1章では、小学校で学習した人物や文化財を振り返り、時代区分や年表の見方を確かめる活動を位置づけている。さらに、「歴史にアプローチ」では、小学校で活用した見方・考え方を振り返りながら、中学校での歴史学習の進め方や見方・考え方の働かせ方、資料活用の方法を確認できるように構成され、本編での学習活動に役立つよう工夫されているなど、発達段階に応じて無理なく学習が進められるよう配慮されている。さらに、教育出版「小学社会 6」に登場した歴史上の人物についてはマークで識別できるようにするなど工夫も図られ、中学校の学習へのスムーズな移行が図られている。
      - 全般、p.Ⅱ～Ⅳ「マーク・表記の説明/キャラクター」、p.2～6「歴史のとらえ方・調べ方」、p.7～9「歴史にアプローチ」など
  - カリキュラム・マネジメントの視点や、地理的分野・公民的分野との分野間の関連について、どのように配慮されているか。
    - 全体として、分野ならではの「見方・考え方」を明確にし、一貫した編集となっているため、他の分野や教科との横断的・連携的なカリキュラムの立案がしやすい構成となっている。特に歴史的分野では、特設ページの脚注部に、地理・公民との関連を示す「関連テーマ」を付けて、学習の連携や振り返りを図る工夫がなされている。各章の「学習のまとめと表現」のページでは、各時代の舞台を地図で確認する地理的な作業活動も取り入れられている。また、第7章の最後には、現代社会の課題と自分との関わりを考察する学習課題が設定され、公民的分野の学習への橋渡しが図られるように構成されている。
      - 日本に受け継がれてきた祭りや芸能、人権の獲得に尽くした人々、民主政治の来歴、グローバル化の進展と異文化交流、地域・社会に参画する人々の事例などが取り上げられ、地理や公民での学習にも生かせるように構成されている。
        - p.36欄外「関連」など全般、各章「学習のまとめと表現」、p.178～179「自由民権運動と政党の誕生」、p.184～185「琉球とアイヌの文化を伝えたい人々」、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など

### 表記・表現、資料

- 記述内容が、正確・公正中立で一貫しているか。
  - 記述内容が正確・公正中立であることはもとより、中学生の思考や論理展開に整合しており明快である。学習の導入から、課題の設定と追究、まとめに至る構成と記述が一貫しており、学習事項の確実な定着を図ることができる。
    - 全般
  - 地名・人名などの固有な名詞や社会科特有の用語などには、見開きごとくにふりがなを付けるとともに、主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いている。本文は平易な表記・表現に徹し、側注には「用語解説」を掲載するなど、読解に負担がかからないように配慮されている。また、巻末のさくいんは、人名と事項に分けて引きやすくするなどの工夫が施されている。
    - 全般、p.292～298「さくいん」など
  - 資料が正確で、効果的に提示されているか。
    - 社会科学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、典拠と併せて視覚的にとらえやすく配慮されている。本編ページの各資料には、指示しやすいうように通し番号を付けるとともに、本文中にも資料との関連がわかるように資料番号が挿入されている。また、巻頭や巻末・扉のページを有効に活用したレイアウトにより、資料性と学習効果が高まるように構成されている。特に巻末の歴史年表は、原始・古代から現代までの全時代を一覧できる両開きの折込ページで構成され、時代の大きな流れや現在からの時間的距離をつかみやすいように工夫されている。
      - 全般、巻末2～3「歴史年表」など
  - 文字や色覚に関して、判読しやすいうように配慮されているか。
    - 視力や色覚に関しては個々の特性があることに留意し、すべての生徒にとって見やすいカラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがされ、第三者機関CUDOの認証を受けている。文字については誰もが見やすいユニバーサルデザインフォントによる黒文字を基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさを確保している。図版資料については、配色とともに形や模様、引き出しなどの表示も工夫することにより、判読しやすいうように配慮されている。
      - 全般
    - 発行者が管理するウェブページは、適切なものであるか。
      - 章の扉ページに掲載されたQRコードやURLは、発行者が管理する特設のウェブページのものである。また、そのリンク先の内容は、省庁などの公的機関・公立博物館など、教科書のより効果的な活用に資するホームページなどとしており、安全で公正中立なものが精選されている。
        - p.17など章の扉ページ全般

### 学習活動

- 社会科において重視される、資質・能力の育成への支援について、どのように取り入れられているか。
  - 【知識・技能】を育成する学習活動への支援として、本編ページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。また、本文中に適宜設けられた「歴史の技」のコーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、歴史の学習で身につけたい技能や表現力を養えるよう配慮されている。この「歴史の技」のコーナーは、小学校社会科の振り返りにあたる学習から中学校社会科で身につけておくことが適切な技能の習得まで、幅広い学習内容の定着に寄与する内容となっている。
    - 【思考・判断・表現】を育成する学習活動への支援として、本編ページの最後に、「確認」を受けて学習したことを基に表現する「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。また、学習の学習活動として「読み解こう」や「Q」のコーナーが適宜設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察する流れが重視されている。特に歴史的分野の学習では、重要な資料の読み取り方や、年表などのまとめ方が「歴史にアプローチ」に整理されており、生徒が振り返って学習を進められるように配慮されている。
      - 【主体的に学習に取り組む態度】を育成する学習活動への支援としては、例えば歴史的分野の最後のまとめ学習として、「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」が位置づけられている。ここでは、今日の課題とその解決について、SDGs（持続可能な開発目標）達成の観点からも探究・構想し、まとめる活動が取り入れられている。各章の通史学習においても、導入の「学習を始めよう」で資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読み取りながら、章の学習を見通しをもって進められるように工夫されている。
        - 【知識・技能】p.21「確認／表現」など各時、p.23「歴史の技：地図を活用しよう」など
        - 【思考・判断・表現】p.75「読み解こう」など各所、p.24-資料3「Q」など各所、p.7～9「歴史にアプローチ」など
        - 【主体的に学習に取り組む態度】p.18～19「原始・古代の暮らしと社会」など各章の「学習を始めよう」、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など
    - 【歴史的新見方・考え方】の視点や方法については、冒頭の「歴史にアプローチ」で小学校からの接続もふまえて明示され、本編各章の学習で「見方・考え方」に留意して、それを働かせながら学習を深めていけるように配慮されている。本編ページでは、「歴史の技」や「読み解こう」、資料解説に付随した「Q」などの問いや、各時間の最後に設けた「表現」のコーナー、各章末の「学習のまとめと表現」の中の問いなどで、問いへの考察に際して見方・考え方を活用できるように工夫されている。
      - 授業の導入の場面では、生徒の興味・関心が高まるような、写真・図版などの資料をわかりやすく提示することで、円滑に授業に入っていくことができるように工夫されている。加えて、生徒にとって親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し、気づきや問い、学習の手がかりなどが示唆されている。学習者の視点を取り入れることで、共感しながら学びに取り組みれるように工夫されている。
        - 本編ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と、学習事項を表す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識を明確にすることができるよう配慮している。「学習課題」から展開していく問題解決的な学習の流れが重視され、その流れに沿って効果的な教材や資料が掲載され、学習意欲の喚起が図られるように構成されている。
          - 授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために適宜設けられている「読み解こう」などのコーナーや、1時間の学習の最後に位置付ける「確認／表現」のコーナーの「問い」に取り組むことで、生徒が自ら学習、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。この「確認／表現」のコーナーでは、学習したことをもとに「履かめよう」・「表すめよう」や、「説明しよう」・「話し合おう」などの課題が多く設定され、知識・理解の確認や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返ることができ、加えて、自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。

- 生徒が自ら積極的に「見方・考え方」を働かせて、主体的・対話的で深い学びを実現するために、どのような配慮がなされているか。
  - 【歴史的新見方・考え方】の視点や方法については、冒頭の「歴史にアプローチ」で小学校からの接続もふまえて明示され、本編各章の学習で「見方・考え方」に留意して、それを働かせながら学習を深めていけるように配慮されている。本編ページでは、「歴史の技」や「読み解こう」、資料解説に付随した「Q」などの問いや、各時間の最後に設けた「表現」のコーナー、各章末の「学習のまとめと表現」の中の問いなどで、問いへの考察に際して見方・考え方を活用できるように工夫されている。
    - 授業の導入の場面では、生徒の興味・関心が高まるような、写真・図版などの資料をわかりやすく提示することで、円滑に授業に入っていくことができるように工夫されている。加えて、生徒にとって親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し、気づきや問い、学習の手がかりなどが示唆されている。学習者の視点を取り入れることで、共感しながら学びに取り組みれるように工夫されている。
    - 本編ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と、学習事項を表す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識を明確にすることができるよう配慮している。「学習課題」から展開していく問題解決的な学習の流れが重視され、その流れに沿って効果的な教材や資料が掲載され、学習意欲の喚起が図られるように構成されている。
      - 授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために適宜設けられている「読み解こう」などのコーナーや、1時間の学習の最後に位置付ける「確認／表現」のコーナーの「問い」に取り組むことで、生徒が自ら学習、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。この「確認／表現」のコーナーでは、学習したことをもとに「履かめよう」・「表すめよう」や、「説明しよう」・「話し合おう」などの課題が多く設定され、知識・理解の確認や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返ることができ、加えて、自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。

## 観点 『**中学社会 歴史**』の特色と具体例

- 特に歴史的分野では、本編ページの「確認／表現」や章末の「学習のまとめと表現」に、グループによる学習活動がバランスよく設置されている。教え合いや学び合いによる協働学習をもとに、多角的に理解したり考察を深めたりすることによって、新たな知識の習得や生徒の学習意欲を向上させる工夫が図られている。
  - 公民としての資質・能力を効果的に培うことを意図した、学習してきたことを基盤に自分なりの考えを表現し合う「選択・判断」や「考察・構想」が設けられ、学習の場においては、学習のねらいに即し、無理なく取り組みやすいように設置されている。特に、歴史的分野においては、歴史学習のまとめとして位置付けられた「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」において、課題解決の提案を行い、社会に向けて発信と対話を続けていく活動を扱っている。
    - p.Ⅱ「教科書の見方・使い方」、p.7～9「歴史にアプローチ」、p.20～21「学習課題」・「確認／表現」など各時、p.23「歴史の技：地図を活用しよう」など各所、p.24-資料3「Q」など各所、p.75「読み解こう」など各所、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など
  - 歴史的分野では各章に「歴史を探ろう」と「身近な地域の歴史を調べよう」の2種類の特設ページが設けられており、通史学習で理解した内容を視点を変えて捉えなおし、考察がよりいっそう深まるように構成されている。また、本編のページ中にも「歴史の窓」が設けられ、歴史を多面的・多角的に考察・理解することができるよう工夫が図られている。
    - 歴史上の多様な人物を取り上げ、各時代におけるさまざまな考え方や、対立などについて理解し、考察できるように配慮されている。
      - p.88～89「特設ページ～歴史を探ろう：働く女性や子どもたち」、p.128～129「特設ページ～身近な地域の歴史を調べよう：地域の街道や港を訪ねて」、p.161「歴史の窓：ペリー～那覇・函館寄港」、巻末1「昔の国と、都道府県の対照図」、巻末2～3「歴史年表」、巻末4「世界地図の歴史」など
    - 章ごとの「内容のまとめり（単元）」をふまえ、各章の導入の「学習を始めよう」ページが刷新され、資料を活用しながら、これから学習する章全体の内容を見通せるよう配慮されている。それと対応する各章末の「学習のまとめと表現」では、図や語句を用いて整理する活動、「思考ツール」などを用いて考えを表現する活動、章全体を貫く「問い」に回答する活動を通して各章の学習をまとめながら、「歴史的新見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりすることができるよう工夫されている。さらに、「学習のまとめと表現」の最後に設けた「時代の変化に注目しよう！」と次章の扉ページを比較することで、時代の移り変わりを意識しながら、次の章の学習への接続が図られるよう構成されている。
      - p.18～19「学習を始めよう～原始・古代の暮らしと社会」、p.56～58「学習のまとめと表現」、p.58「時代の変化に注目しよう！」、p.59「第3章の扉」など各章
  - 見通し・振り返りがどのように意識され、どのように位置づけられているか。
    - 多面的・多角的な理解を促す学習活動がスムーズに進行するように、どのような支援や工夫が取り入れられているか。
      - 多面的・多角的な理解を促す学習活動がスムーズに進行するように、どのような支援や工夫が取り入れられているか。

### 社会的課題

- 人権教育・福祉教育に関して、どのように配慮されているか。
  - 日本国憲法や教育基本法に示される「人間尊重の精神」に基づき、差別や人権確立の歴史、人権をめぐる現状と課題についての考察を通して、すべての人の権利が守られる、差別のない「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。また、同和教育に関しても、同和問題の歴史的・科学的な認識が深まるように配慮され、人権保障や問題解決に向けた努力の必要性が強調されている。特に歴史的分野では、人権確立の歩みとともに、女性やアイヌ民族・沖縄がおかれていた立場について理解を深めることができるように配慮されている。
    - p.80～81「琉球王国とアイヌ民族」、p.87「国づくりに活躍した人々」、p.125「身分による差別」、p.167「三閉伊・授・浜染一揆」、p.169「身分制の廃止と四民平等」、p.176～177「国境の画定と北海道・沖縄」、p.222～223「アイヌ民族の歴史、水戸黄門」など
  - 環境教育など「持続可能な社会」の形成、SDGs（持続可能な開発目標）の視点に関して、どのように配慮されているか。
    - 第7章の「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」では、それまでの歴史学習をふまえて、現代の課題を考察し、未来を構想する学習の中で、SDGsの観点から考えることもできるように構成されており、公民の学習への接続も図られている。
      - 3分野を通じて、自然環境と自分たちとの関わりや、環境保全の重要性について多面的に考察し、理解を深める学習活動が重視されている。「地球規模で考え、足元から行動する」観点が強調され、廃棄物の減量やリサイクルをはじめとする循環型社会への転換を追求する教材が積極的に取り上げられ、環境保全のために自ら行動できる力が養われるように配慮されている。特に歴史的分野では、日本の公害問題の原点といわれる足尾銅毒事件や、高度経済成長の時代に発生した公害などについて取り上げ、環境教育への取り組みの歴史的背景について理解を深めるとともに、「江戸の町人の暮らし」の事例からエコやリサイクルなど持続可能な社会の形成について歴史的な視点から考察を深められるよう配慮されている。
        - p.140～141「リサイクル都市・江戸の町人」、p.199「足尾銅毒事件」、p.270～271「豊かな国民生活と公害」、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など
    - 国際理解教育に関して、どのように配慮されているか。
      - 3分野を通じて、外国（人）との交流や地域の国際化、世界の多様な文化・宗教などの事例が豊富に取り上げられている。国籍や文化・習慣の違いを超えて相互に理解・尊重し合う必要性が強調され、国際社会に生きる日本人として「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。歴史的分野では、とりわけ中国や韓国などの東アジア地域と日本との歴史的交流や、勢力が衝突について詳しく取り上げ、これからのような関係を築き、その解決を目指すべくいくべきか考察を深められるように留意されている。
        - p.34～35「東アジアの中の大政権」、p.78～79「東アジア世界の交流」、p.120～121「開かれた窓口」、p.276～277「民主化のうねりと国際社会の変化」など
    - 平和教育に関して、どのように配慮されているか。
      - 3分野を通じて、先の世界大戦がもたらした惨禍や冷戦の影響、核兵器廃絶への取り組みをはじめ、現代の地域紛争や国際テロなどの問題について理解が深まるように配慮され、平和を希求することの意義が強調されている。特に歴史的分野では、人類の生命に対する脅威である核兵器の開発の歩みや被害、その廃絶に取り組む人々の姿を通して、非核三原則の持つ意義について考察を深められるように留意されている。また、平和を維持するために、戦争の記録や記憶を継承する取り組みについても取り上げられるなど、生徒が共感的に学習できるように配慮されている。
        - p.246～247「軍国主義の脱北」、p.248～249「戦争の記憶をつなぐ人々たち」、p.263「平和条約をめぐる」、p.267「非核三原則」、p.282～283「平和を築くために」、p.284～285「平和と共生を願う人々」など
    - 情報化・メディアリテラシーの進展に関して、どのように配慮されているか。
      - 3分野を通じて、情報化の進展に伴う社会や生活の変化、情報の有効な活用について理解が深まるように配慮されている。特に歴史的分野では、絵画や文書などのさまざまな資料の読み取りや、博物館・資料館やインターネットを活用した調べ学習を通して、収集した情報を多面的・多角的に分析し、自分の言葉で他者にわかりやすく伝える能力を養えるよう工夫されている。
        - p.7～9「歴史にアプローチ」、p.10～16「身近な地域の歴史を調べよう」など

### 今日の課題

- 地域（郷土）への愛着や持続可能な地域づくりに関して、どのように配慮されているか。
  - 3分野を通じて、地域の歴史や現状、抱える課題などについて実際に調査し、理解を深める学習活動が重視されている。特に歴史的分野では、「身近な地域の歴史を調べる学習が時代ごとに設定され、郷土の伝統と文化への関心を高める観点や学び方の工夫が、地域調査の手引き」のコーナーで示され、学習に役立てることができるよう構成されている。
    - p.10～16「身近な地域の歴史を調べよう」、p.36～37「地域の遺跡や古墳を訪ねて」、p.90～91「地域の寺社を訪ねて」、p.128～129「地域の街道や港を訪ねて」、p.182～183「明治期の面影を訪ねて」、p.226～227「大正・昭和初期の面影を訪ねて」、p.274～275「移り変わる戦後の街を訪ねて」など
  - 社会への主体的な参画に関して、どのように配慮されているか。
    - 3分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々などの事例が積極的に取り上げられ、社会の形成者としての自覚と参画への意思が養われるように配慮されている。特に歴史的分野では、身近な地域を調べる学習について、地域・社会と関わり合いながら学習を進めていけるように構成されている。また、歴史学習の最後に、これからの社会を築いていくために、社会とどのように関わればよいのか考察する場面が取り入れられている。
      - p.10～16「身近な地域の歴史を調べよう」、p.280～281「私たちの生きる時代」、p.282～283「世界の中の市民の一人として」、p.289～291「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう」など
    - 伝統・文化や宗教に関して、どのように扱われているか。
      - 3分野を通じて、地域の歴史的な歩みや人々の暮らしと密接に結びついた伝統・文化の多様性やその継承という観点から、多文化共生への理解と、郷土や日本への愛着を深める学習活動が重視されている。特に歴史的分野では、各時代の文化史の記述が充実しているほか、代表的な文化遺産が豊富に掲載され、特に国宝・重要文化財、世界遺産にはマークを付けて紹介することにより、その意義や継承について理解を深められるように留意されている。また、宗教に関しては、仏教・キリスト教・イスラム教などの主な宗教のおこりや変遷などのほか、古代の人々の信仰や神話・伝承についても取り上げ、多様な価値観に対する理解と寛容を育み、多文化共生社会を創造する態度を養うことができるように配慮されている。
        - p.Ⅳ「マーク・表記の説明」、p.50～51「国風文化の誕生」、p.86～87「今につながる文化の芽ばえ」、p.130～131「花開く町人文化」、p.200～201「西洋文化と伝統文化」、p.28～29「宗教のおこりと文明」、p.54～55「神話にみる古代の人々の信仰」、p.70～71「新しい仏教」、p.98～99「教会と「コーラン」の教え」など
      - 防災教育に関して、どのように扱われているか。
        - 3分野を通じて、自然災害と防災に関する現状と課題、これからのあり方についての理解と考察が深まるよう配慮されている。特に歴史的分野では、自然災害と防災、災害時の対応、復興の観点から、過去に発生した「関東大震災」の事例を通して、復興に対する人々の思いや工夫・努力について理解が深まるよう配慮されている。また、「阪神・淡路大震災」・「東日本大震災」などの自然災害と対して、過去の事例をふまえ、これからの自分たちのあり方を考えられるよう工夫されている。
          - p.238「関東大震災と復興新平」、p.280～281「災害と向き合う」、p.290～291「災害の歴史を学ぶ・伝える」など
        - 少子化・高齢化をめぐる問題に関して、どのように扱われているか。
          - 3分野を通じて、少子高齢化が急激に進む我が国の現状とともに、増え続ける世界人口に対する我が国の人口減少など、地球規模の人口問題に対する理解が深まるように配慮されている。特に歴史的分野では人口の視点から歴史を振り返りながら、その特徴と背景を探るとともに、今後の人口変化を予想させる活動などを通して、多角的な理解が深まるように工夫されている。
            - p.202～203「人口の変化と海外への移民」、p.282「社会の入り口の中で」など
          - 領土をめぐる課題に関して、どのように扱われているか。
            - 3分野を通じて、日本の領土（領海、領空含む）をめぐる昨今の動きや課題が、新学習指導要領に基づいて適切に記載され、学習内容に応じて的確に取り上げられている。特に歴史的分野では、北方領土問題の歴史的経緯が詳しく記述されているほか、竹島や尖閣諸島の領有をめぐる昨今の動きについても記載されている。
              - p.176～177「形づくられる日本」、p.263「北方領土」、p.268～269「隣国と向き合うために」など

### 印刷・製本

- 印刷の仕上がりは、鮮明で読みやすいか。
  - 文字や図版など資料の印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。特に、写真の発色がきれいで、統計資料も読み取りやすい。
- 本の造りは使いやすいか。また、環境への配慮はなされているか。
  - 複数年の使用に耐えうる堅固な製本で、装丁にも汚れにくい加工や、氏名を記入しやすい型抜き加工が施されている。造本上も、各ページがより開きやすい綴じ方を採用したことから、紙面スペースも広くなり資料性が高まっている。表紙は、歴史的分野の学習内容に関連した写真で構成され、明るく魅力的である。また、印刷には、バイオマス（生物資源）エネルギーによって発電されたグリーン電力のほか、再生紙と植物由来インクが使用され、環境への負荷を軽減するように配慮されている。
    - 表紙、裏表紙